

中学校・道徳の内容項目の解説

礼儀

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること	[一般的な呼称例]
(1) 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。	礼儀

●解説

全体的な理解	<p>礼儀の基本は、相手を一個の人格として認め、相手に対して敬愛する気持ちを具体的に示すことであり、心と形が一体となってはじめてその価値が認められる。したがって、敬愛の気持ちを伝えるためには、相互に承認された一定の形が必要になり、具体的には言葉遣い、態度や動作として表現される。これは人間関係や社会生活を円滑にするために創り出された優れた文化の一つといえることができよう。しかし、どれほど形ができていたとしても人間尊重の精神がなければ礼は通じない。また、相手を思う気持ちがあったとしても、時と場にあふさわしくない言動は人々の間では受け入れられないであろう。</p>
発達的な観点	<p>中学生の時期は、礼儀の大切さについてある程度理解し、言葉遣いや行動の仕方もある程度身に付きつつあるものの、まだ十分習慣化しているとはいえない。また、この時期は、一般的な傾向として、従来からのしきたりや形に反発する傾向が強くなったり、照れる気持ちやその場の状況に左右されたりすることによって望ましい行動ができなくなることも見受けられる。</p>
指導の着眼点	<p>そこで、指導に当たっては、日常生活において、時と場に応じた適切な言動を体験的に学習するとともに、形の根底に流れるその意義を深く理解できるようにすることが大切である。また、逆に、心情面を整えることによって形として外に表すことができるようになることもある。このことを十分に踏まえて、時と場に応じた適切な言葉遣いや行動がとれるよう、特に内面的な指導を重視する必要がある。なお、礼儀は時代や社会によって変わる相対的な面をもっている一方で、伝統として受け継がれるものもある。例えば日本には伝統的な礼儀作法があるように、外国にもそれぞれの国に応じた礼儀作法がある。国際化の進展に伴い外国の人々に接する機会が多くなった今日、外国の礼儀についても理解を深め、外国の人々に気持ちよく接することができるように指導することが大切である。いずれにしても、相手を人間として尊重する精神の現れであることに変わりはない。</p>

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること	[一般的な呼称例]	
低学年	(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。	礼儀
中学年	(1) 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接する。	礼儀
高学年	(1) 気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。	礼儀